



## 学生にパイロットの魅力を伝える



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、5月19日（土）、航空自衛隊静浜基地（焼津市）が航空祭前日に行った「操縦教育ツアー」を支援した。

このツアーは、パイロット教育を行っている同基地が、将来パイロットをはじめとした航空自衛官を志望する学生などを対象として行った募集広報。静岡地本はこのツアーに高校生など24人を引率した。この日は風が強かったものの、青空に恵まれた絶好のツアー日和となった。管制塔の見学では、静浜管制隊の管制室で基地周辺を一望し、その後パイロット教育に使われているT-7初等練習機を目の前に、性能などの説明を受けた。

次に、普段パイロットの操縦教育で実際に使用されているフライトシミュレーターを使った訓練を体験。参加者はシミュレーターを操作し、操縦席に乗り込み、教官パイロットの模擬操縦で5分間の基地上空フライトを楽しみながら飛行教育についてわかりやすく説明を受けた。

参加した学生は「普段の基地見学などでは経験できない、シミュレーターに乗れてとてもよかった」と嬉しそうに話していた。

最後に、翌日の基地航空祭のリハーサルを行っていたブルーインパルスの飛行を見学した。参加者はエプロン地区から空を見上げ、機体の迫力ある曲技飛行に魅了され、自分の気に入ったポジションで何枚も写真を撮っていた。

静岡地本は、今後も各種イベントにおいて募集広報を積極的に行い、若者の無限に広がる空のような可能性を自衛官なら実現できることなど、自衛隊の魅力を伝えていく。

## 地本ブースに来場者殺到



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、5月20日（日）に航空自衛隊静浜基地（焼津市）で開催された航空祭において募集広報活動を実施した。

今年の航空祭は、静浜基地60周年と焼津市・大井川町合併10周年記念航空祭として開催された。午前は曇り空だったものの、午後には晴天に恵まれ、各種航空機や陸上自衛隊の装備品等の地上展示のほか、戦闘機や練習機等の飛行展示、ステージイベントなどを、市内外から訪れた約3万人の来場者が楽しんだ。空自ブルーインパルスの飛行もあり、パイロットの紹介で「1番機、後席操縦士、航空学生51期、静岡県静岡市出身」とアナウンスが流れると、会場が地元出身者の活躍に大いに湧いた。

静岡地本は、基地で使用された歴代航空機の展示やステージイベントが行われる格納庫前に募集ブースを開設。午前10時の展示エリア解放と同時に来場者が殺到した。自衛官募集相談員3人の協力もあり、準備したパンフレットや航空祭記念缶バッジはあっという間に配布終了となった。

募集ブースに立ち寄った来場者の中には、将来自衛官を目指していたり、進路の一つとして考えている若者の姿もあり、広報官が隊員募集の制度や入隊後の生活などについて丁寧に説明を行った。

静岡地本は、今後も地元や部隊との連携を密にし、若者が自衛官となることを夢見るような募集広報活動を実施して、隊員確保に努めていく。

## 天竜川河川敷で自衛隊をPR



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、5月27日（日）、天竜川河川敷（浜松市）で開催された「遠州はまた飛竜まつり」で広報活動を実施した。

同イベントは手筒花火や打ち上げ花火で夜空を彩り、凧上げや物産展が開かれるなど、2日間で延べ11万人の来場者で賑わいを見せた。

静岡地本は「防災」をテーマに自衛隊ブースを開設し、陸上自衛隊が使用する中型トラックや偵察用オートバイを展示。さらに災害派遣活動の写真パネルや隊員が派遣時に携行する糧食を展示し、来場者に災害派遣で活躍する自衛隊をPRした。また、子供を対象とした迷彩服の試着体験や缶バッジ作製を行い、会場を盛り上げた。

自衛隊ブースに立ち寄った中学生からは「自衛隊が大好き。将来は絶対自衛官になりたい」との声があったほか、普段見慣れない陸上自衛隊の車両は子供から大人まで幅広い年齢層の人気を集め、偵察用オートバイに試乗して記念撮影をする来場者の姿も多く見られた。

静岡地本は、このような防災を身近に感じることのできる広報活動を引き続き実施し、地元住民に自衛隊に対する正しい理解と認識を深めてもらえるよう努めていく。